

親子で読む

# こどもタイムズ



単語や文章のまじりを意識しながら  
新聞記事を書き写していき

## 「書きトレ！」始めます

### 「紙と鉛筆」学習見直す

西日本新聞社は「こどもタイムズ」面で、きょう4日付から新たな試みを始めます。子ども向けの記事を読み、書き写すことで、ニュースの要点をつかむ力や文章力、社会全般に対する知識、考える力などを身につけるコーナー「書きトレ」です。

### 毎週金曜に掲載

この紙面の下の欄をご覧ください。毎週金曜日に掲載します。対象は小学校高学年以上ですが、お年寄りの「脳活」などにも役立つ活字の活字も活用されています。抽選でプレゼントも用意しています。どうか多くの読者の皆さんの利用をお待ちしています。

さて、なぜ今、「書き写す」なのでしょう。それは、急速に進む社会、特に教育のデジタル化の中で、従来の「紙と鉛筆」による学習法を見直すことで、望ましいバランスを探るきっかけになるのではと考えるからです。全国の小中学校で児童生徒に一人一台のデジタル端末を配備する政府の「GIGAスクール構想」が2019年に始まり、かなり浸透してきました。タブレット端末を使った授業や宿題をはじめ、教育現場のICT(情報通信技術)化は目を見張るほどです。もちろん、子どもの頃からオンライン学習やデジタル教材に慣れることのメリットは少なくありません。デジタル端末を使うことが多くなり、実社会に出る準備になるだけでなく、デジタル教材の音声機能など、以前なら「勉強が苦手」やゲームへの依存や体調不良、視力低下などを懸念する声が強まっています。GIGAスクール構想の今後についても注意深く見ていく必要があるでしょう。

◇「みんなのギモンにこたえるモン」と「親子で読むNEWS」は休みました。

## スマホで発達にひずみ ■書き写しで脳活性化

物心のついた頃からインターネットが身近にあり「デジタルネイティブ」と呼ばれる今の子どもたち。スマートフォンやデジタル端末に囲まれる生活環境は、その「育ち」にどんな影響を与えるのでしょうか。福岡県内で臨床を続ける脳科学の専門医2人に聞きました。

### 脳科学専門医に聞く

「デジタルが身近になる前後で子どもたちに変化を感じますか?」  
山下裕史朗氏 ゲームは前からあったけれど、最近特にスマホの影響が大きい。いつでもどこでも手放せなくなっています。知らないうちに発達にひずみが出てくるのではないかと心配しています。



山下 裕史朗氏  
前柳川療育センター施設長、座長。久留米大医学部小児科学講座主任教授。注意欠陥多動性障害(ADHD)をはじめ小児神経学や神経発達症を専門に臨床研究を続けている。

「この時代に「書き写し」に挑戦する意味は何でしょうか?」  
山下 文章から目をそらすように見続け、手を動かす。そうした手と目の協応(運動)が大事。ここが弱いと正しい文字が認識できず、いつまでもきれいな字が書けない可能性があります。これは一朝一夕には身につけません。



小路 純央氏  
久留米大高次脳疾患研究所教授、医学博士。うつ病や認知症などの研究による脳科学の知見を生かし、子どもから高齢者までメンタルヘルスの診断や治療に取り組んでいる。

「新聞紙面上での書き写しに期待すること」  
山下 デジタルの世界は動画・音楽など自分の興味があることばかりに接しますよね。ニュースを通した「ちょっと違う世界」の情報に触れることで、新しい刺激や好奇心につながる良いですね。

「特に気になる悪影響は?」  
小路 私たち大人も集中して作業をしているときに隣で「コン」とスマホの着信音が鳴ると、気になり手が止まってしまいますよね。ましてや、子どもの脳

はまだマルチタスク(複数の作業を同時に行う)に向いていないんです。

「北欧など一部の国ではデジタル任せにしたことで学力低下を招いたとして、紙と鉛筆への揺り戻しが来ています。デジタル教育の評価については、科学的なエビデンス(証拠)を基に判断していくべきだと思います。」

「実際に書いてほしい」と思いますが、書き写しは子どもからお年寄りまで取り組める脳トレ。集中して脳を活性化させましょう。



「気になるのは睡眠時間と質の低下です。真っ暗な寝室ですらスマホ画面の強い光を受け続けるのは当然良くない。体内時計や次の日の体調にも関わるので、寝室に持ち込まないといったルール作りが必要です。」  
小路 タブレット端末はネットを使い世界中から情報を集めたり、発表内容をクラスで共有したりと、学習の幅や可能性を大きく広げてきています。一方、目にした情報は頭に入ってくるけれど受け身になりがち。書いて

「確かに小学6年と中学3年を対象に毎年実施される「全国学力テスト」結果の移り変わりが目立ちます。右肩下がりの傾向が顕著です。」  
小路 中学生の方がスマホの所持率や使用時間が目立つので、成績に反映されているのかもしれない。

「新聞紙面上での書き写しに期待すること」  
小路 たくさん良い文章を読み、実際に書いてほしいと思えます。書き写しは子どもからお年寄りまで取り組める脳トレ。集中して脳を活性化させましょう。

**書きトレ!**  
新聞を読んで書き写して  
身に付けよう!

- 読解力** 文章のポイントを抑える力を学べる
- 文章力** 分かりやすく伝わりやすい文章を学べる
- 知識** たくさんの言葉(漢字)を学べる
- 考察力** 物事の見方や考え方を学べる

「書きトレ!」に取り組んで図書カードをもらおう!  
実際に書き写した紙面をスマホで写真に撮り、下記のQRコードからご投稿ください。抽選で毎月20名様に1000円分の図書カードをプレゼントします。  
※当選の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます(当選者には、ご投稿いただいた翌月の中旬から下旬に賞品を発送します)  
【お問い合わせ先】西日本新聞キャンペーン係  
電話: 092-575-6152(平日10時~17時)

**山下先生おすすめの書きトレ!**

書き写して  
集中力や  
文章力UP!

40年以上にわたって子どもを診察する脳科学の専門家  
柳川療育センター施設長  
医学博士 山下裕史朗氏

**大西さん宇宙でいろいろな実験**

宇宙飛行士の大西卓哉さん(49)が3月16日、アメリカとロシアから来た3人の飛行士といっしょに、国際宇宙ステーションに着きました。宇宙ステーションは地球の上空400キロを飛ぶ、サッカー場ほどの大きな実験室です。大西さんたちは半年ほど滞在し、地球や宇宙でのくらしに役立ついろいろな実験をする予定です。

宇宙は約8年半ぶりの大西さん。3元気に帰ってくるのが楽しみです。明日からがんばっていきなさいと日本の人たちにメッセージを送りました。

今回、大西さんは船長で飛行士たちのリーダーとなります。地球からおもちゃ焼き鳥など多くの日本食を持ってきました。仲間といっしょに食べて、安全に仕事ができるよう力を合わせた「10の約束」。